

果樹病虫害発生予察調査結果（6／10調査分）
（三条、加茂、田上地域）

6月10日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共 通）

- ナシヒメシンクイの誘殺数は前年・平年より多くなっています。有効積算温度による予測では、**第1世代成虫の発生盛期は6月17日頃、第2世代幼虫の防除時期は6月24～26日頃**と予測されます。
- 今回調査ではハダニ類の発生は確認されませんでした。今後高温乾燥傾向が続く場合、注意が必要です。特に主幹近くの葉裏を丁寧に観察しましょう。
- 今回調査ではニセナシサビダニによる被害は確認されませんでした。6月中旬～下旬頃が防除適期となります。
- カメムシ類による被害が全国で多く発生しています。今回の調査では、調査園地外でモモの吸汁被害が確認されました。適期防除や早期の袋かけで被害を防ぎましょう。

（ナ シ）

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- 花腐細菌病の発生が確認されている地点があります。り病枝は切除し、園外で処分しましょう。
- 一部で、黒星病の発生が確認されています。り病葉・り病果を発見したら摘み取り園外で処分しましょう。今後、梅雨入りすると雨天や多湿の日も多くなりますので、園内の過湿を防ぎ通風をよくすることも大切です。新梢管理や排水改善にも努めましょう。
- セイヨウナシ褐色斑点病の発生が確認され、増加傾向となっています。り病葉・り病果を発見したら摘み取り園外で処分するとともに、果実被害を予防するために**早期の袋かけ**をお願いします。

- **ワタアブラムシ**の寄生が、一部の**新梢先端部**で確認されています。寄生部位は摘み取り園外で処分するとともに、薬剤防除を行う場合は抵抗性を抑制するため、同系統の薬剤を連用しないよう注意してください。

(モ モ)

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- **せん孔細菌病**は全調査園地において発病葉が確認され、枝病斑も一部で確認されています。り病した枝・葉・果実は切除し、園外で処分するとともに、**袋かけや新梢管理も早期**に行いましょう。
- 一部で、**ナシヒメシンクイ**による新梢先端部の心折れが確認されています。果実への食害を防ぐため、適期防除に努めましょう。また、被害部位はせん除し、園外で処分しましょう。

(ブドウ)

調査地点ごとに100葉、100果房、5a内でのつるを調査しました。

- 一部で、**灰色かび病**発病葉が確認されています。過湿状態で発生しやすいため、通風状況に注意し、新梢管理等に努めましょう。
- 今回調査で果実被害は確認されませんでした。今後の降雨や暑さによる病虫害の多発生が懸念されますので、できるだけ**早期の傘かけや袋かけ**をお願いします。

次回調査は6月24日(月)を予定しています。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020